香取遺産

光福寺の釈迦三尊像保存修理

vol.198

光福寺　寺内281

修理後の釈迦三尊像

釈迦如来像、台座の解体状況

東日本大震災により崩れた台座

地域の檀家にとって大切な信仰の対象として寺院やお堂に安置されている仏像には、過去に修理を施されながら今に伝えられたものがあります。補修や部材交換の痕跡、古文書などの記録、像に残る修理銘などにより、こうした修理を確認できます。

市内には、現在24件の仏像が国・県・市の指定文化財となっています。そのうち指定後に文化財保存の目的で保存修理を施した市指定の仏像があります。光福寺に安置されている鎌倉期制作の木造の釈迦三尊像で、蓮華座に安置された釈迦如来（像高68・8㎝）を中尊として、向って右に獅子に乗った文殊菩薩（像高38・2㎝）、左に象に乗った普賢菩薩（像高46・2㎝）を配しています。いずれも寄木造、漆塗りで、玉眼をはめ込んだものです。

この三尊像は、東日本大震災の際に台座ごと崩れ、大きく破損したため、補助事業により平成24年から2年にわたって像および台座の保存修理が行われました。修理前に行った専門家による調査では、経年の劣化が随所に見られるとともに、像表面の補修、両手首先や台座、装身具の修理・交換のほか、髻や眉間の白毫、背後の光背が失われるなど、造像当初から変わる箇所も確認されました。

修理は専門業者が行いましたが、方針として、現状維持修理を基本として、欠失部分は可能な範囲で復元を試みることとしました。具体的には、ホコリや汚れの除去、髻や白毫など失われた部分の新造、漆塗りの上に金箔を押した漆箔の剥落止め、鼠害や虫穴の穴埋め、接合が外れた箇所の再接合、台座の組み上げなど、その内容は多岐にわたりました。

修理を施した釈迦三尊像、文化財的価値を保ちつつ、地域の大切な仏像として守り伝えられています。

問 生涯学習課 ☎(50)1224